

P&G JOY #いい夫婦の日にしよう「家事分担をJOBからJOYへプロジェクト」

夫婦で見ていただきたい家事分担動画『ふたりでわけあうもの』**調査の結果、妻・夫の8割以上が共感し、
公開2週間で250万回再生を突破！****家事分担量よりも、気持ちを受け入れてもらいたいと願う妻が9割以上
妻・夫の8割以上が気持ちまでも分け合う家事分担「JOY」を実現したい**動画URL：<https://youtu.be/do3HWd9ETsk>

プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン株式会社（本社：神戸市、以下P&G）の台所用洗剤ブランド『JOY』が、いい夫婦の日（11月22日）に向けて行っている、夫婦での家事の分け合いはもちろんのこと、気持ちまでを分け合う家事分担を応援する「家事分担をJOBからJOYへプロジェクト」において公開中の、夫婦で見ていただきたい家事分担動画『ふたりでわけあうもの』が、公開2日で100万回再生、公開2週間で250万回再生を突破しました。

今回、20代～60代の既婚男女500人を対象に、動画に対する意見や家事分担の実態を探る「夫婦の家事分担実態調査」を行いました。作業分担としての家事分担である「JOB」から、気持ちまで分け合う家事分担「JOY」は、妻からも夫からも共感性が高く、より大きな社会的なムーブメントへと広がっていきそうです。主な調査結果は以下の通りです。

**家事分担動画『ふたりでわけあうもの』 妻も夫も8割以上が共感「まさに、うちの家庭そのもの」**

- ★ 動画への共感率は、**妻86.4%・夫87.2%**と、ともに8割を超える高い共感率
- ★ 最も共感できるシーンは、妻「いつもいっぱいいっぱい」(44.8%)、夫「暮らしを続けていくうちに、抱えるものが増えてきて」(32.4%)と、妻・夫ともに家事や仕事、育児に忙しく、切羽詰まっているシーンに共感が集まる
- ★ この動画を見てもらいたい相手は、妻も夫も「配偶者」(妻73.2%、夫65.6%)が第1位

家事分担、7割以上はなりゆき。気持ちを分け合う家事分担ができていると感じている妻は4割程度。

- ★ 7割以上の家庭が「家事分担は、しっかり話し合うことがないままなりゆきで決まってしまう」
- ★ 現在「気持ちをわけあう家事分担ができている」と回答したのは妻41.6%、夫53.6%

「思いやりのある家事分担」は夫の意識変容がカギ!? 夫も妻も8割以上が家事分担をJOYにしたい

- ★ 現在の家事は「JOB」(妻62.4%、夫61.6%)だが、これからは「JOY」に近づけたい(妻92.0%、夫82.0%)
- ★ 「新婚当初」と比べて、「現在」のほうが、夫婦で思いやりのある家事分担ができていると答えた夫婦に理由を聞くと、妻も夫も、「夫の意識変容がきっかけとなった」と回答(妻42.1%、夫35.3%)

調査概要

- 調査対象：20～69歳既婚、配偶者と同居している男女 10歳ごとに各50名ずつ 計500名
- 調査期間：2017年11月2日（木）～2017年11月3日（金）

- 調査手法：インターネット手法
- 調査エリア：全国

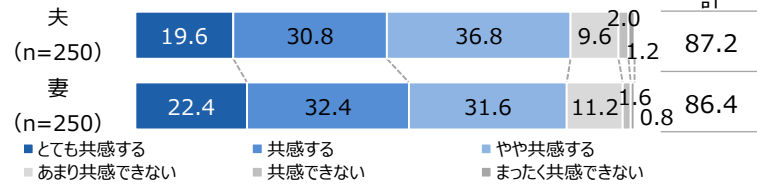
家事分担動画『ふたりでわけあうもの』への反応

★妻も夫も8割以上が動画に共感！「相手を責めたいわけではない。ただわかってほしい。」

まず、家事分担動画『ふたりでわけあうもの』を視聴していただき、その感想を聞きました。すると、妻の86.4%が「共感する」と答えています。夫も87.2%が「共感する」と答えており、夫は妻以上に共感度が高くなっています【図1-1】。家事分担は、家事の分け合いはもちろんのこと、

気持ちまでを分け合うことが重要だというメッセージへの高い共感が得られる結果となりました。共感した理由を聞くと、「夫婦生活を継続していくうちに、お互いのことを気遣うことを忘れがちになる。再発見、再確認を定期的に行うことが、円満な夫婦生活には必要」（40代男性）、「私は専業主婦ですが、夫も仕事を頑張っていて、大変なことは理解しているつもりなので口には出しませんが、家事全般をほぼ1人でやることの大変さや虚しさをわかってほしいと思うことは多々あります。相手を責めたいわけではなく、ただわかってほしい。でもきっと夫も同じ気持ちだと思います」（30代女性）をはじめ、以下のように多くの意見が寄せられました。

【図1】 動画『ふたりでわけあうもの』共感度



動画『ふたりでわけあうもの』共感した理由 ●…妻 ◆…夫

- いつの間にか自分がして当然のような家事ができていて、手伝ってほしい気持ちをたまにぶっさらばうに投げかけてしまふところに共感した。お互いの気持ちを都度言わずにためてしまふと爆発してしまい喧嘩ようになってしまふが、動画では仲直りができていて、どちらかが折れる、受け入れる気持ちが大切だと感じた。（20代女性）
- 相手に手伝って欲しいと思うことは度々。でも、言ってしまうと雰囲気が悪くなると思う気持ちと、何で私だけ、という気持ちが交錯します。何でも話せる家族のはずなのに、言えないこともあります。（30代女性）
- 出会った頃のようにお互いが、相手のことを思いやり困った事や嫌なことがあれば話し合い、お互いが理解しあえたならば上手くいくんだろうと思う。（40代女性）
- ◆結婚して今までのことが当たり前になっていた。それを思い出さないといけないと感じる動画だった。（20代男性）
- ◆新婚のころのように色々と一緒にやろうとする気持ちはあるが何故か小さな壁がある。それを昔を思い出さような行動でお互いが近づく点が共感できる。（30代男性）
- ◆JOBからJOYという通り、昔の仲が良かった時を思い出し、お互いに楽しみながら家事を手伝い、夫婦仲が良かったことがとても共感できた。（40代男性）

★妻の共感シーン1位は家事や仕事、育児に忙しく「いつもいっぱいいっぱい」となるシーン 妻と夫の共感ギャップが大きいのもこのシーン

次に、動画の中で共感できるシーンをあげてもらおうと、妻は「いつもいっぱいいっぱい」（44.8%）、「責めているわけじゃなかった。わたしの気持ちをわかってほしくて」（41.6%）、「あなたもたまには家事やってよね」（38.4%）がTOP3に。夫は「暮らしを続けていくうちに、抱えるものが増えてきて」（32.4%）、「お互いに言いたくない言葉を交わしあって、ふたりで…、何をわけあいたかったんだろう」（26.8%）、「家族3人でシンクの前に並びながら、お皿洗いをしているシーン」（26.0%）の順となりました【図2】。夫婦ともに自分の気持ちを表現しているシーンへの共感度が高いようです。夫婦間のギャップが最も大きかったシーンは、妻の共感第1位の「いつもいっぱいいっぱい」（妻44.8% > 夫18.0%）で26.8ポイントもの差がついています。

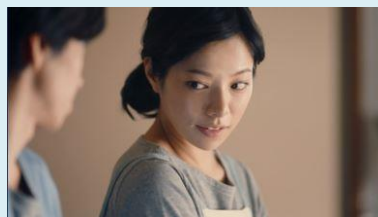
【図2】 動画『ふたりでわけあうもの』共感シーンTOP3

●妻の共感シーンTOP3



妻の共感シーン第1位

妻が家事や仕事、育児に忙しく、「いつもいっぱいいっぱい」とナレーションが入るシーン（44.8%）



妻が夫に対して、「責めているわけじゃなかった。わたしの気持ちをわかってほしくて」と言うナレーションが入るシーン。（41.6%）



妻が夫に対して、「あなたもたまには家事やってよね。」と言うシーン。（38.4%）

●夫の共感シーンTOP3



夫の共感シーン第1位

夫が朝子供を送りながら、「暮らしを続けていくうちに、抱えるものが増えてきて」とナレーションが入るシーン。（32.4%）



「お互いに言いたくない言葉を交わしあって、ふたりで…、何をわけあいたかったんだろう」とナレーションが入るシーン。（26.8%）



「夫婦がわけあうって」「そんなに簡単なことじゃないけど」「ありがと」とナレーションが入り、家族3人でシンクの前に並びながら、お皿洗いをしているシーン。（26.0%）

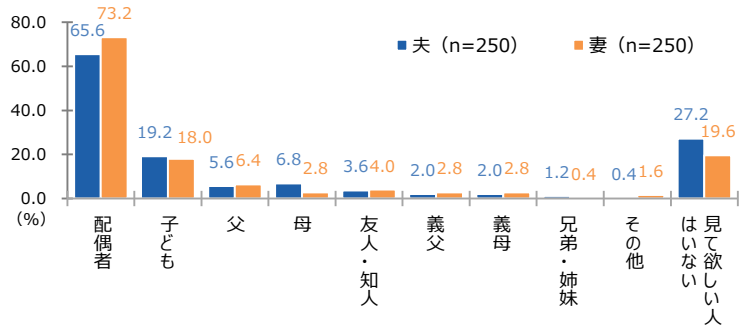
動画を見せたい相手と、家事分担への課題意識

★ 動画『ふたりでわけあうもの』を見てもらいたいのは、夫・妻ともに「配偶者」が第1位！

では、家事分担動画『ふたりでわけあうもの』を誰に見てもらいたいかと聞くと、夫も妻も「配偶者」（夫65.6%、妻73.2%）が第1位でした。配偶者に次いで高いのが「子ども」（夫19.2%、妻18.0%）で、次の世代の夫婦関係は、夫婦ふたりで分け合うことが当たり前となって欲しい、という親の思いが感じられます〔図3-1〕。

配偶者に見てもらいたいと答えた人にその理由を聞くと、夫に見てもらいたい理由には「昔はいろんなことを話し合ったりしてたけど、今は必要最低限の会話しかない。このままではいけないと思いつもなかなか話し出せない。そんな気持ちを伝えたい」（20代女性）、夫が妻に見てもらいた理由には「これまでの反省を込めながら、これからは一緒に家事を楽しみましょうというメッセージを伝えるため」（50代男性）など、以下のような意見が寄せられました。

〔図3〕 動画『ふたりでわけあうもの』を見てもらいたい人



動画『ふたりでわけあうもの』を配偶者に見てもらいたい理由

妻が夫に見てもらいたい理由

- 家事をしてくなくて、まさしくこの動画の旦那と同じだから。やってほしくて見せたい。また、責めているわけじゃない、というところで私が「やってよ」と言うのも責めているわけじゃないことを話したい。（20代女性）
- 私の気持ちを代弁している内容ですし、きっと私の夫も私と同じことを考えていると思うので、共感してもらいたい。（30代女性）
- 色々と手伝ってくれているが、あくまでも、手伝う、で、わけあうという意識は薄い気がするから。（40代女性）
- うちの夫が家事を手伝うので、この動画のようなことはあまりないけど、夫が忙しいシーズンになると、帰りが遅くなる事が続くので、母子家庭状態が続いて、そんな時つい嫌みを言ってしまったりしたので、この動画であの時はいっぱいいっぱいになってたという気持ちを伝えたい。（40代女性）

夫が妻に見てもらいたい理由

- ◆ 楽をしたいから分担したいのではなく、気持ちを分かり合いたいから家事も一緒にしたいのだと気付いたから。（20代男性）
- ◆ 初心に戻り2人でもっと仲良くしていきたいから。（20代男性）
- ◆ 自分は新婚のころと同じようにしたい気持ちがあり、それに気付いてほしい。また、やってほしいことは素直にお願いできる関係を取り戻したい。（30代男性）
- ◆ 一番関係してくる相手だし、一番わかりあいたい相手だから。（30代男性）
- ◆ お互いで動画を見ながら、普段何も思わずにやっている行為が相手を傷つけていた等の反省点に気づき、お互いで直していきたい。（40代男性）
- ◆ これまでの反省を込めながら、これからは一緒に家事を楽しみましょうというメッセージを伝えるため。（50代男性）

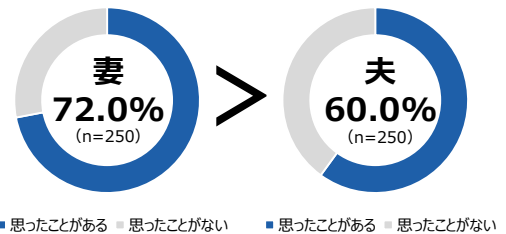
★ 妻も夫も、お互いに、家事分担問題が改善されれば夫婦関係もよりよくなると考えている

次に家事分担の実態について聞いてみました。

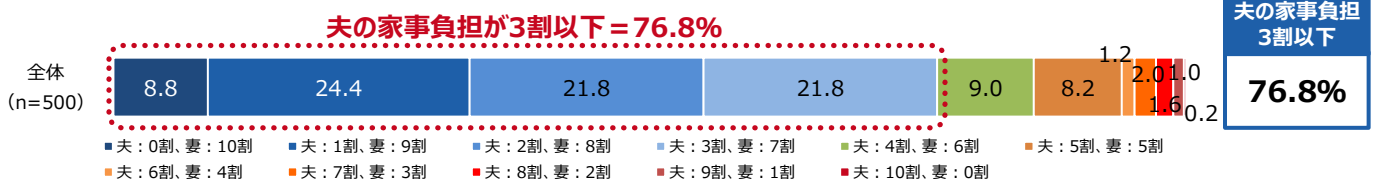
まず、家庭内の家事分担について「もっとこうなれば夫婦の関係がよくなるのに」と思ったことがあるかと聞くと、妻の72.0%は「ある」と答えており、夫も60.0%が「ある」と答えています〔図4〕。夫婦の家事分担については、妻も夫も問題意識を持っているという点については共通しているようです。

しかし、家事の分担比率を聞くと、「夫:1割 妻:9割」（24.4%）が最も多く、夫の家事負担が「3割以下」という家庭が全体の3/4（76.8%）を占めており〔図5〕、家事は妻の仕事…という家庭がいまだに多いようです。

〔図4〕 家事分担が改善されれば夫婦関係がよくなる



〔図5〕 夫婦の家事分担比率



夫婦の家事分担の“実態”と“理想”

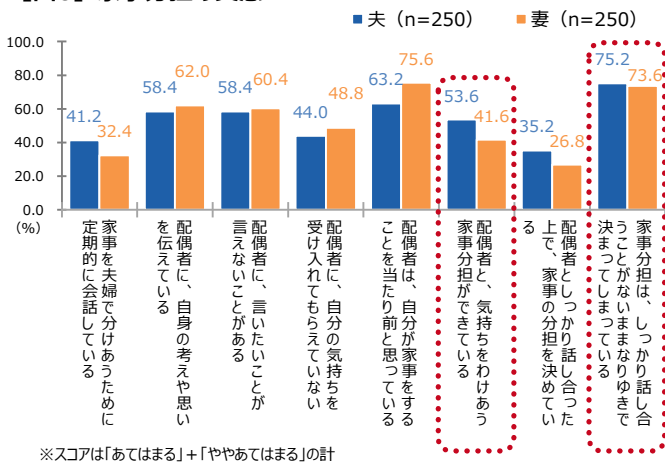
↑ 気持ちまでを分け合う家事分担ができていて感じている妻は4割、夫は5割。

実は、家事分担量よりも、気持ちを受け入れてもらいたいと願う妻が9割以上！

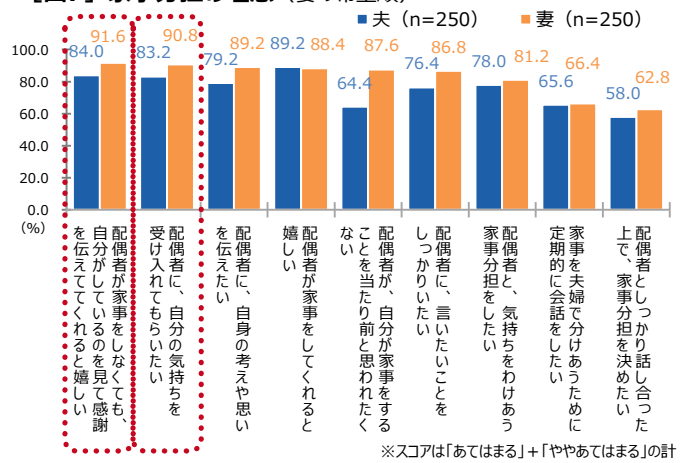
日頃の家事の実態を聞くと、「家事を夫婦で分けあうために定期的に会話している」（夫41.2%、妻32.4%）は半数以下で、7割以上の家庭が「家事分担は、しっかり話し合うことがないままなりゆきで決まってしまう」（夫75.2%、妻73.6%）ということが分かりました。また、「配偶者は自分が家事をすることを当たり前と思っている」という点について、妻は75.6%と夫（63.2%）より高く、さらに、「配偶者と気持ちをわけあう家事分担ができていて」と感じている妻は41.6%と夫（53.6%）より低く、家事分担に対する妻の不満が感じられます〔図6〕。夫婦の気持ちや意識の差も、家事分担の満足度に大きく影響していそうです。

では、妻たちはどのような家事分担を望んでいるのか聞くと、「夫が家事をしなくても、自分がしているのを見て感謝を伝えてくれると嬉しい」（91.6%）が意外にも最も多く、「夫に自分の気持ちを受け入れてもらいたい」（90.8%）、「夫に自身の考えや思いを伝えたい」（89.2%）の順となり、妻たちは夫と家事分担をする前に、夫との良好なコミュニケーションを望んでいます〔図7〕。

【図6】 家事分担の実態



【図7】 家事分担の理想（妻の希望順）



↑ 妻と夫が考える「思いやりのある家事分担」とは？

気持ちを分け合う家事分担には、相手を思いやる気持ちが大切です。各家庭によって「思いやりのある家事分担」は異なってくるため、その具体的な内容を聞いてみました。すると、「お互いに感謝しあう家事」（20代男性）、「気付いた方が自発的に行き、当たり前と思わないこと」（40代男性）、「お互いの仕事や体調の度合いによって持ちつ持たれつ助け合う感じ」（30代女性）、「やって当たり前と思わずに感謝される」（40代女性）などをはじめとして、以下のような意見が寄せられました。

「思いやりのある家事」とは？ ●…妻 ◆…夫

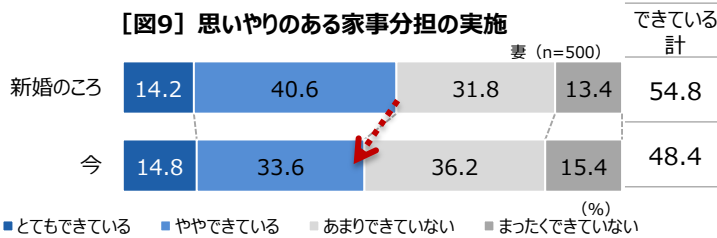
- 相手の状況を見て自分の分担でないものを代わりにやったり、どちらの分担でもない作業を率先して行う。相手を急かしたり文句を言わない。（20代女性）
- お互いが感謝し合える関係。家事をやっていたら声をかけたり一緒にやったり一方通行にならない感じ。相手の立場気持ちを汲み取って家事を率先して行う。相手が過ごしやすい環境を作ろうとしていくこと。（30代女性）
- 一緒にしたり、何も言わなくても、自ら進んでしてくれる。（40代女性）
- 手伝おうか？と言う言葉は言わない。自然と同じタイミングで家事を行えるのが理想。（40代女性）
- 言われなくても自分でできる家事をすすんですること。（50代女性）
- お互いの特技や体力的な事を考慮して家事分担を決める。（60代女性）
- たとえば相手の体調が悪い時には、普段は相手の分担であっても、さっと代わりにやること。（60代女性）
- ◆ 自分がやってもらって嬉しかった事をそのまま返してあげる。相手の喜ぶ顔を想像し、作業する。（20代男性）
- ◆ 常に感謝の気持ちを持ち、やってくれる事を当たり前と思わず、相手の事を思い、どうすれば相手喜んでくれるかを感じ行動すること。（30代男性）
- ◆ 苦手なところを、補い合う。（40代男性）
- ◆ 思いやりというか当たり前のこととして家事を捉える。（40代男性）
- ◆ 役割分担が決まっても、片方に任せきりにせず、自然と協働で家事をしている。（50代男性）
- ◆ 重たいものを持つ、汚いことをしてあげる。（トイレ掃除、風呂掃除など）毎回ごみを出すなど、とにかく相手に慈悲の心を持って接すること。（60代男性）

家事分担、JOB or JOY 実態とホンネ

★「思いやりのある家事分担」には、夫の意識変容が重要であることが明らかに！？

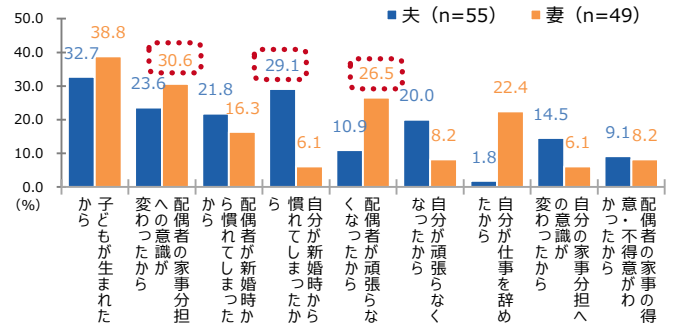
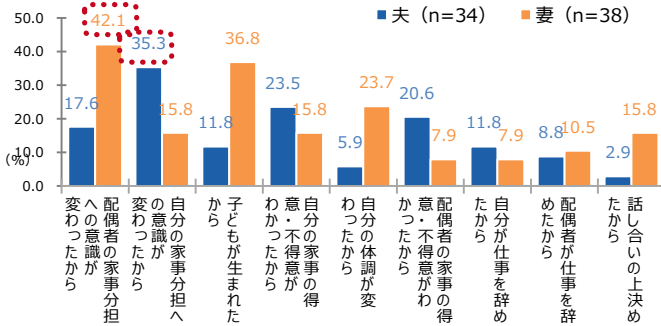
今回の動画では、恋人同士の2人が結婚し家族になり、抱えるものが増えてきて、分け合っていたものが分かりあえなくなってきた現在と過去を対比し、気持ちまで分け合う家事分担の重要性を描いています。実際に新婚の頃と現在とで、思いやりのある家事分担ができていないかの変化を聞くと、新婚のころには過半数の人（54.8%）ができていたにもかかわらず、今もできていると回答している人は6ポイントも少なくなっています【図9】。

実際に新婚の頃と現在とで思いやりのある家事分担の変化を聞くと、良い方向に変わった人の理由は、妻は「配偶者の家事分担への意識が変わったから」（42.1%）、夫は「自分の家事分担への意識が変わったから」（35.3%）が最も高くなっています【図10】。新婚の頃と比べて、悪い方向に変わったと答えた人に理由を聞くと、夫も妻も「子どもが生まれたから」が一番の理由ですが、それに次ぐ理由として、夫は「自分が新婚時から慣れてしまったから」（29.1%）を挙げ、妻は「配偶者の家事分担への意識が変わったから」（30.6%）、「配偶者が頑張らなくなったから」（26.5%）を挙げています【図11】。これらの結果から、夫婦の思いやりの家事を良い方向に変えていくのは、夫の意識次第と言えそうです。



【図10】 新婚時よりも思いやりのある家事分担ができていない人の理由 (上位項目のみ)

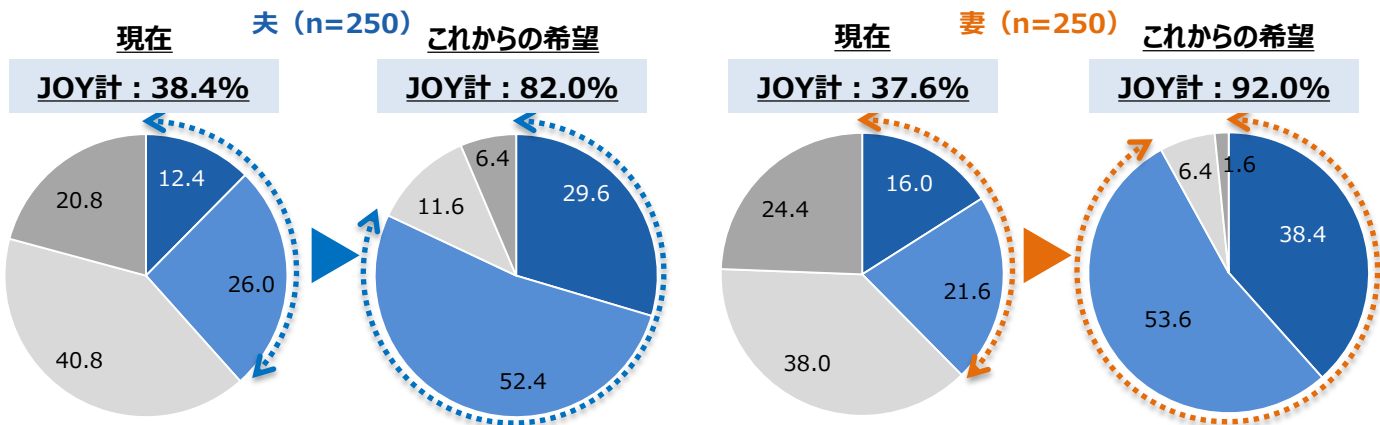
【図11】 新婚時よりも思いやりのある家事分担ができていない人の理由 (上位項目のみ)



★8割以上の妻・夫が、作業分担としての家事分担＝「JOB」ではなく、気持ちまで分け合う「JOY」を目指したい！

今回のプロジェクトでは、作業分担としての家事分担の「JOB」を、気持ちまで分け合う家事分担の「JOY」に変えることを提唱しています。現在の家事がどちらに近いかと聞くと、「JOB」（夫61.6%、妻62.4%）の方が多くなっていますが、これからは「JOY」に近づけたいと答えた人が夫82.0%、妻92.0%と圧倒的に多くなっています【図12】。

【図12】 JOBとJOY現状の家事分担とこれからの家事分担



プロジェクトに賛同する専門家の方々のコメント

「家事分担をJOBからJOYへプロジェクト」に賛同していただいている専門家のおふたりに、今回の動画が多くの人に支持された理由、調査結果についてコメントをいただきました。



治部 れんげさん (ジャーナリスト)

妻も夫も8割以上が共感という調査結果に良い意味で驚きました。私の周囲でも、妻側からの「泣きそうになった」という共感の声をいくつも聞いています。日本の夫婦の家事分担については、その大半を担う妻と、あまり動かない／動けない夫という構図が明らかになっています。こうした事実の提示は、夫には快く思われないことも多いです。そのため、妻が共感できるような「先進的な」家事分担の話題に、夫はついていけない、腰が引けるという常識がコンテンツを作る側にもありました。そうした実態を踏まえると、この動画が夫にも共感された、という調査結果は、現実を良い方向に変えていくための一歩になると思います。妻と夫の共感シーンの違いも興味深かったです。[図2]に示されるように、夫婦共に自分を投影できる人物が写っているシーンの共感が高いという結果が出ています。妻は夕方のお迎えと買い物をして帰宅するシーン、夫は子どもを自転車に乗せて送っていくシーンを、それぞれ1位に上げているのは、この動画と同じことを毎日やっている夫婦が多いことを示していると思います。夫婦それぞれの行動と思いを等分に描いたところに、妻も夫も共感できた要因があると、あらためて感じました。[図6]には、家事分担を巡る夫婦の意識差が表れています。気持ちまで分け合う家事分担ができていて、と答えた人は夫が53.6%、妻が41.6%となっており、妻の方が「もやもや」を抱えている度合いは大きいことが見て取れます。ただ、こうしたギャップは日本だけの問題ではありません。育児分担に関する自身と相手の貢献度については、夫婦で意識のギャップがあることは、米国の社会学者による大規模調査でも明らかになっています。家事分担をJOBからJOYに変えるためのキーパーソンは、夫であることが、今回の調査で明らかになりました[図10]。特に、夫自身が「自分の意識が変わったこと」を挙げている点が重要です。このような自己認識を多くの夫が持つようになると、日本の共働き夫婦のあり方も変わっていくでしょう。今後は、より多くの人気がつくこと、気づいていない人にも、こうした動画を見てもらうような働きかけが重要になると思います。



田中 俊之さん (社会学者・男性学専門)

『ふたりでわけあうもの』は家事分担をテーマにした動画です。一般的に言えば、世代や性別によって意見が分かれがちな問題を扱っています。それにもかかわらず、20代～60代の既婚者を対象にした調査で、共感度が優に80%を超えているのは驚くべき結果です。最も動画を見てもらいたい相手に配偶者が選ばれていることから、評価の高さがうかがえます。現代の日本では「常識」が多様化し、ある人にとっては大問題でも、価値観が違う人には「全く理解できない悩み」になってしまうことが少なくありません。そのような状況で、男女問わず幅広い世代からこれだけの評価を得られたのは、誰かを「悪役」にすることなく、どの夫婦でも直面する葛藤を上手に描いているからだと思います。現代の日本では、共働き化が進んでいます。それにもかかわらず、夫の家事・育児時間はなかなか増えません。夫が変わってくれなければ、家事に育児、さらには仕事と一人で何役もこなしている妻は、疲弊していくばかりだと感じているはずで、なぜ共働きでも夫は家事・育児に消極的なのでしょう。その原因は、男性が最も共感したシーンから見えてきます。夫が子どもを保育園に送っている時に、「暮らしを続けていくうちに、抱えるものが増えてきて」とナレーションが入ります。数年前に男性の平均初婚年齢は30歳を超えました。中堅社員として仕事が増え、責任が増し、出世レースが最も厳しい30代に、ちょうど子どもに手のかかる時期が重なってしまうのです。大黒柱として家計を支えるという役割を優先すれば、イクメンとして家事・育児をするという役割を十分にこなすことが難しくなります。だから、夫は家事・育児に非協力的でも仕方がないなどと言いたいわけではありません。男女の賃金格差や待機児童といった社会問題が解決していないため、いまだに「男は仕事、女は家庭」という役割分担が夫婦関係に影を落としています。妻にとっても夫にとっても、仕事と家庭の両立は簡単ではないのです。夫は妻が女性だからこそ抱える問題を理解するべきです。同じように、妻にも夫が男性だからこそ抱える問題があることを知って欲しいと思います。社会が簡単にならない以上、夫婦にとって重要なのは相互理解です。『ふたりでわけあうもの』は、大切だけど忘れてしまいがちな「お互いを思いやる気持ち」の意義を教えてくれたのではないのでしょうか。

P&G JOY 家事分担動画「ふたりでわけあうもの」概要

◆動画

タイトル： P&G JOY家事分担動画「ふたりでわけあうもの」

出演： 妻役：桜井ユキさん 夫役：松澤匠さん

公開日： 2017年11月2日（木）

動画URL： <https://youtu.be/do3HWd9ETsk>

<動画ダイジェスト>

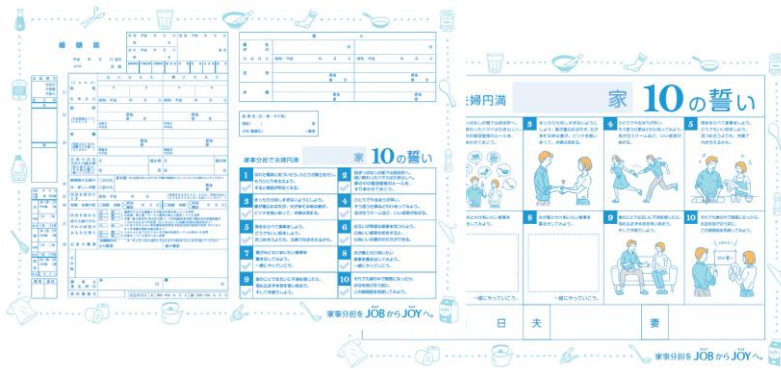


◆「家事分担をJOBからJOYへプロジェクト」 JOY共家事婚姻届、共家事写真、無料配布中！

特設サイトURL： <http://m.myrepi.com/joy/jobtojoy/>

『JOY 共家事 婚姻届』

『検索画像から共家事夫婦を増やそうプロジェクト』



■ 台所用洗剤ブランド『JOY』について

「お皿洗いを少しでも楽にする小さなミラクルを通して、日々の生活の中でお客様を笑顔に」というブランドビジョンを持ち、発売以来20年以上日本のお皿洗いを支えてきた、台所用洗剤ブランドです。時代のニーズを反映して、こびりつき油もすると落とす「ジョイ コンパクト」、ジョイの強力な洗浄力に除菌効果をプラスしたW除菌で、まな板・スポンジ・ふきんの99.9%除菌ができる「ジョイ 除菌コンパクト」、手荒れを防ぐ「ジョイ コンパクトモイストケア」、食洗機用洗剤の「ジョイ ジェルタブ」、「食洗機用ジョイ」など多彩なラインアップで、多くの方々に支持されています。